

平成30年3月27日
航空局 空港技術課

先進的警備システム実証実験の検証結果をまとめました

～空港ターミナルビル一般区域の警戒強化～

国土交通省は、空港ターミナルビル一般区域の警戒強化対策として実施した、先進的警備システム実証実験の検証結果をまとめました。複数のカメラ映像を先進的な技術により解析する機能は、警戒強化のみならず警備負荷軽減にもつながることなどが確認されました。

国土交通省は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、空港ターミナルビル一般区域の警戒強化を目指し、先進的警備システムによる実証実験を行いました。

1. 実証実験の目的

先進的警備システムによる実証実験は、その導入効果を検証及び評価することにより空港ターミナルビルへの先進的警備システム導入促進につなげると共に、同システムの性能向上を図ることを目的に実施しました。

2. 実証実験の概要

実証実験の実施に当たっては、外部有識者を含めた先進的警備システム実証実験評価会（以下「評価会」という。）を設置し、要求水準、募集要項、参加事業者の選定、実証実験結果の評価などの重要事項について評価会の審議を経た上で進めました。

実証実験は、平成29年12月2日より12月19日の間で、東京国際空港国際線旅客ターミナルビルの2階到着ロビーにおいて、公募の上選定された事業者の協力により、空港ターミナルビル一般区域で有効と思われた機能を中心に実施しました。（別紙1参照）

なお、評価会において個人情報や技術情報などには特に配慮すべきとの提言があったため、それらに十分配慮した上で実験を行いました。（別紙2参照）

実験終了後、各事業者から報告された検証結果は、評価会により評価を受け、総評として取りまとめられました。（「先進的警備システム実証実験検証結果の総評」平成30年3月13日 先進的警備システム実証実験評価会）

3. 先進的警備システムの導入促進

各事業者は、実証実験において空港ターミナルビル一般区域の特性を把握できたことにより性能向上に寄与したと思われると共に、今後においても、検証結果を踏まえ更なる性能向上に活用されていくものと思われます。また、空港ターミナルビル一般区域の警戒強化に向け検証結果を活用することにより、先進的警備システムの導入促進を図ります。

【問い合わせ先】

航空局 航空ネットワーク部 空港技術課 古家 山根
代表：03-5253-8111（内線 49532, 49533）
直通：03-5253-8725
FAX：03-5253-1656

実証実験で実施した主な機能

実証実験は、空港ターミナルビル一般区域の警戒強化に有効と思われた以下の機能を主軸に実施しました。各事業者によって様々な技術を応用していますが、機能毎に実施された実験の一例を以下に示します。

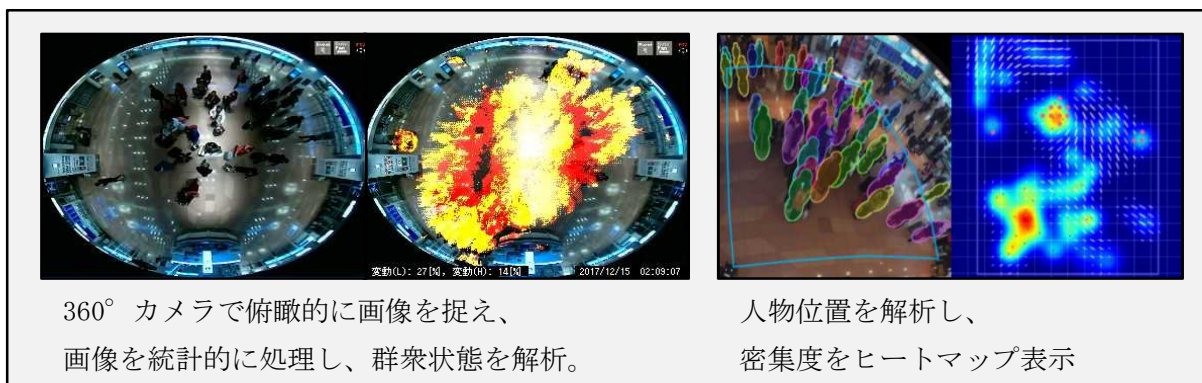
① 不審行動者追尾監視機能

不審行動者を認識させ、その後の移動を追尾監視する等の機能【一例】



② 群衆行動解析機能

群衆の動態を俯瞰的にとらえ、正常または異常を判断する等の機能【一例】



③ 不審物検知機能

有者が明確でない物体を不審物と判断し警報させる等の機能【一例】



情報セキュリティへの対応

① 個人情報に配慮した実験

評価会における審議過程において、空港利用者など一般の方が映り込む映像を取り扱う実験となるため、個人情報に関する事項については特に配慮すべきとの提言を頂き、実証実験を進めるに当たり「個人情報保護に関する基本指針（プライバシーポリシー）」を独自に定め、その目的や情報の安全管理措置などを明確化し、公表の上、実施しました。

② 技術情報に配慮した実験

評価会では、各参加事業者が持ち寄った技術には開発途上のシステムも含まれていることを想定し、個人情報と同様に技術に対する機密保持についても配慮が必要との提言を頂きました。実証実験を進めるに当たり、各参加事業者はもちろんのこと、評価会の各委員に至るまで情報を取扱う関係者に対し、守秘義務を徹底の上で実施しました。また、評価会に提出された技術情報、警備情報を含む全ての資料は、非公表非公開としました。

③ 空港利用者へ配慮した実験

実証実験を実施した空港ターミナルビルにおいては、その現場に実証実験実施中を示すポスターを掲示し、実験の目的・方法・プライバシーポリシー策定などを空港利用者の目に見える形で明確に示し実施しました。

国土交通省 **東京国際空港**
 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism **Tokyo International Airport**

国際テロ防止を目指した先進的警備システム実証実験へのご理解をお願いします!
 Advanced security system demonstration now on working!

実験の目的
 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、空港ターミナルビルなどのソフトウェアに対する国際テロ等の防止対策として「空港の自主警備体制強化」を目的とした実証実験です。This is a demonstration experiment aiming at "airport self-guard system strengthening" as a measure to prevent international terrorism against soft targets such as airport terminal building for 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games.

実験方法
 国際線ターミナルビル到着ロビーに取り付けたカメラを使って、不審行動者や不審物を検知する実験を行います。
 Using the camera installed in the arrival lobby of the International Terminal Building, let us detect suspicious persons and suspicious objects.

期間 12月2日(土)～19日(火)
場所 国際線旅客ターミナルビル 2階到着ロビー

主催者 航空局 Civil Aviation Bureau
 プライバシーポリシー 個人情報の適切な保護と取扱いが重要なテーマであると認識し、実証実験において「個人情報保護に関する基本指針」を策定し、厳守します。

問い合わせ 国土交通省航空局航空ネットワーク部空港技術課
 TEL.03-5253-8111(内線 49532) 受付時間：平日 9:30～18:00

URL http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku09_hh_000103.html

協力事業者 兼松株式会社・セコム株式会社・総合警備保障株式会社・東芝インフラシステムズ株式会社・日本電気株式会社・パナソニックシステムソリューションズ ジャパン株式会社・株式会社日立製作所・三菱電機株式会社 (五十音順)

SPONSORS: KANEMATS, SECOM, ALSOK, TOSHIBA, NEC, Panasonic, HITACHI, MITSUBISHI ELECTRIC

以上について対応し実証実験を行った結果、円滑に実証実験を進めることができ、広く空港利用者からご理解を頂いたものと思います。